

# 高時川の濁りに関する漁業団体への聞き取り結果（令和4年10月21日～令和5年8月3日）

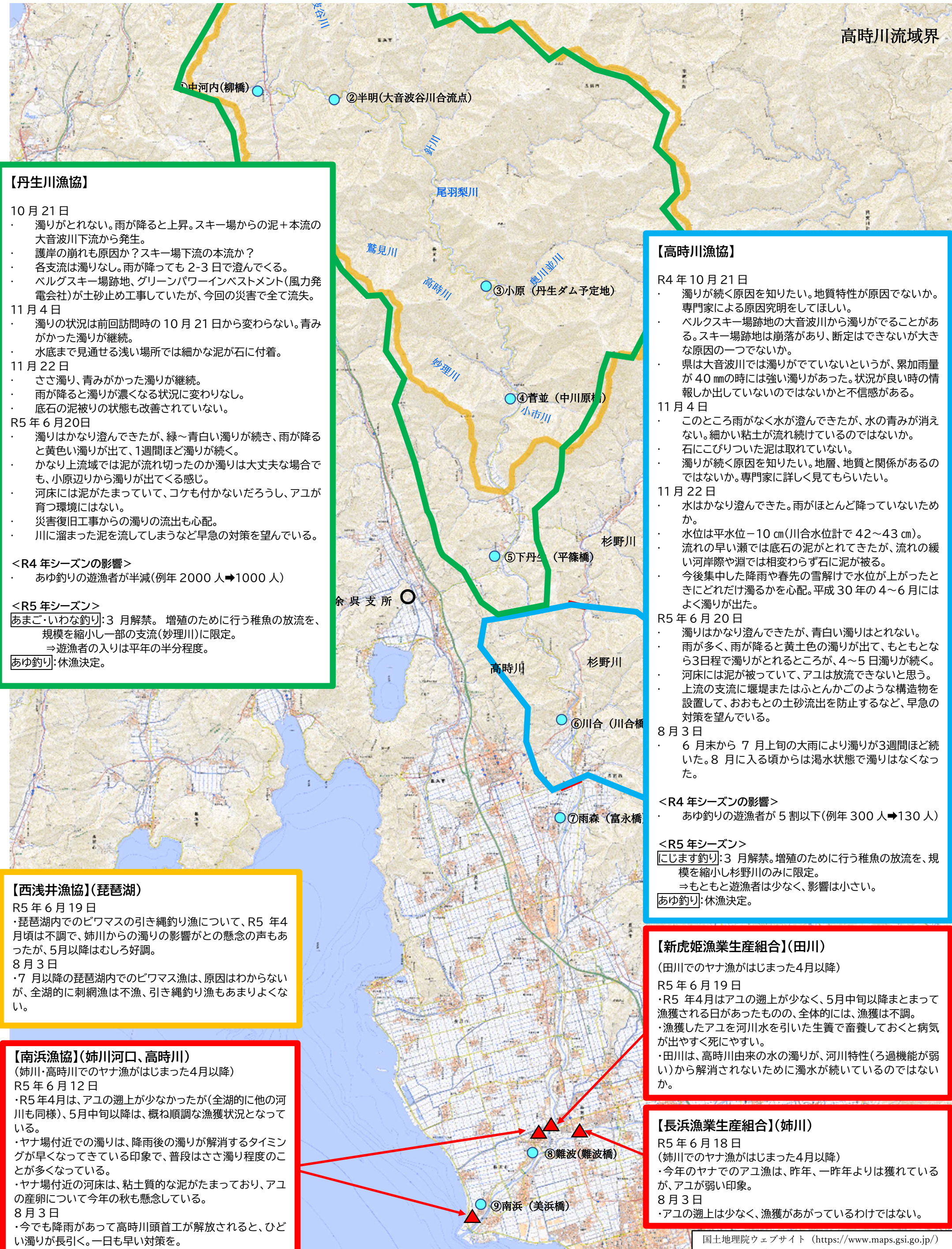
令和5年8月9日  
農政水産部水産課

※令和5年6月23日の資料  
に、8月3日聞き取り分を追記

## 【聞き取り結果の概況】

- ・河川漁協は、現在、アマゴ・イワナ釣りについては濁りの影響を受けない支流に限定して営業、アユについては今期の休漁を決定。
- ・高時川の濁りの影響を受ける、姉川、高時川、田川にある4つのヤナでは、田川を除いて漁獲は比較的順調。田川は、漁獲量、漁獲物の質ともよくない。
- ・雨が降ると濁度が上昇する状況が継続しているが、ひどい濁りの解消は次第に早まる傾向だが白濁りは続く。田川は、濁りが継続する傾向。

## 高時川流域界



### 【丹生川漁協】

10月21日

- ・濁りがとれない。雨が降ると上昇。スキー場からの泥+本流の大音波川下流から発生。
- ・護岸の崩れも原因か？スキー場下流の本流か？
- ・各支流は濁りなし。雨が降っても2-3日で澄んでくる。
- ・ベルグスキー場跡地、グリーンパワーインバستمント(風力発電会社)が土砂止め工事していたが、今回の災害で全て流失。

11月4日

- ・濁りの状況は前回訪問時の10月21日から変わらない。青みがかった濁りが継続。
- ・水底まで見通せる浅い場所では細かな泥が石に付着。

11月22日

- ・ささ濁り、青みがかった濁りが継続。
- ・雨が降ると濁りが濃くなる状況に変わりなし。
- ・底石の泥被りの状態も改善されていない。

R5年6月20日

- ・濁りはかなり澄んできたが、緑～青白い濁りが続き、雨が降ると黄色い濁りが出て、1週間ほど濁りが続く。
- ・かなり上流域では泥が流れ切ったのか濁りは大丈夫な場合でも、小原辺りから濁りが出てくる感じ。
- ・河床には泥がたまっていて、コケも付かないだろうし、アユが育つ環境にはない。
- ・災害復旧工事からの濁りの流出も心配。
- ・川に溜まった泥を流してしまうなど早急の対策を望んでいる。

<R4年シーズンの影響>

- ・あゆ釣りの遊漁者が半減(例年2000人→1000人)

<R5年シーズン>

**アマゴ・イワナ釣り**: 3月解禁。増殖のために行う稚魚の放流を、規模を縮小し一部の支流(妙理川)に限定。  
⇒遊漁者の入りは半年の半分程度。

**あゆ釣り**: 休漁決定。

### 【高時川漁協】

R4年10月21日

- ・濁りが続く原因を知りたい。地質特性が原因でないか。専門家による原因究明してほしい。
- ・ベルグスキー場跡地の大音波川から濁りがでることがある。スキー場跡地は崩落があり、断定はできないが大きな原因の一つでないか。
- ・県は大音波川では濁りがでていないというが、累加雨量が40mmの時には強い濁りがあった。状況が良い時の情報しか出していないのではないかと不信感がある。

11月4日

- ・このところ雨がなく水が澄んできたが、水の青みが消えない。細かい粘土が流れ続けているのではないか。
- ・石にこびりついた泥は取れていない。
- ・濁りが続く原因を知りたい。地層、地質と関係があるのではないか。専門家に詳しく見てもらいたい。

11月22日

- ・水はかなり澄んできた。雨がほとんど降っていないためか。
- ・水位は平水位-10cm(川合水位計で42~43cm)。
- ・流れの早い瀬では底石の泥がとれてきたが、流れの緩い河岸際や淵では相変わらず石に泥が被る。
- ・今後集中した降雨や春先の雪解けて水位が上がったときにどれだけ濁るかを心配。平成30年の4~6月にはよく濁りが出た。

R5年6月20日

- ・濁りはかなり澄んできたが、青白い濁りはとれない。
- ・雨が降ると、雨が降ると黄土色の濁りが出て、もともとなら3日程度で濁りがとれるところが、4~5日濁りが続く。
- ・河床には泥が被っていて、アユは放流できないと思う。
- ・上流の支流に堰堤またはふんかごのような構造物を設置して、おもとの土砂流出を防止するなど、早急の対策を望んでいる。

8月3日

- ・6月末から7月上旬の大雨により濁りが3週間ほど続いた。8月に入る頃からは濁水状態で濁りはなくなった。

<R4年シーズンの影響>

- ・あゆ釣りの遊漁者が5割以下(例年300人→130人)

<R5年シーズン>

**にじます釣り**: 3月解禁。増殖のために行う稚魚の放流を、規模を縮小し杉野川のみ限定。  
⇒もともと遊漁者は少なく、影響は小さい。

**あゆ釣り**: 休漁決定。

### 【西浅井漁協】(琵琶湖)

R5年6月19日

- ・琵琶湖内でのビワマスの引き釣り漁について、R5年4月頃は不調で、姉川からの濁りの影響がとの懸念の声もあったが、5月以降はむしろ好調。

8月3日

- ・7月以降の琵琶湖内でのビワマス漁は、原因はわからないが、全湖的に刺網漁は不漁、引き釣り漁もあまりよくない。

### 【南浜漁協】(姉川河口、高時川)

(姉川・高時川でのヤナ漁がはじまった4月以降)

R5年6月12日

- ・R5年4月は、アユの遡上が少なかったが(全湖的に他の河川も同様)、5月中旬以降は、概ね順調な漁獲状況となっている。
- ・ヤナ場付近での濁りは、降雨後の濁りが解消するタイミングが早くなってきている印象で、普段はささ濁り程度のことが多くなっている。
- ・ヤナ場付近の河床は、粘土質的な泥がたまっており、アユの産卵について今年の秋も懸念している。

8月3日

- ・今でも降雨があって高時川頭首工が解放されると、ひどい濁りが長引く。一日も早い対策を。

### 【新虎姫漁業生産組合】(田川)

(田川でのヤナ漁がはじまった4月以降)

R5年6月19日

- ・R5年4月はアユの遡上が少なく、5月中旬以降まとまって漁獲される日があったものの、全体的には、漁獲は不調。
- ・漁獲したアユを河川水を引いた生簀で畜養しておく病気が出やすく死にやすい。
- ・田川は、高時川由来の水の濁りが、河川特性(ろ過機能が弱い)から解消されないために濁水が続いているのではないかと。

### 【長浜漁業生産組合】(姉川)

R5年6月18日

(姉川でのヤナ漁がはじまった4月以降)

- ・今年のヤナでのアユ漁は、昨年、一昨年よりは獲れているが、アユが弱い印象。

8月3日

- ・アユの遡上は少なく、漁獲があがっているわけではない。

国土地理院ウェブサイト (<https://www.maps.gsi.go.jp/>)  
地理院地図(電子国土web)を滋賀県が加工して作成